

# ヘッドピース制作の技術向上

花き装飾コース

## 1. はじめに

就職先が葬儀の仕事がメインなのでブライダル装花の仕事が入った時でも動けるようになりたいと思い、ヘッドピース制作の技術向上を目指すこととした。授業で習ったワイヤリング方法と最近流行しているグルー方法で制作に取り組んだ。

## 2. 初めて学んだワイヤリング方法

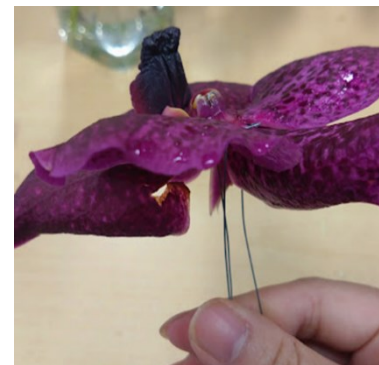
### (1) トルコギキョウのワイヤリング方法

茎を切り、花卉の上からピアスメソードをし、花卉を包むようにしてテーピングすることで、花を小輪に出来、デザインに合ったボリュームに調整できる。茎にピアスメソードをするよりもこの方法でワイヤリングする方が花が抜けにくかった。



### (2) バンダのワイヤリング方法

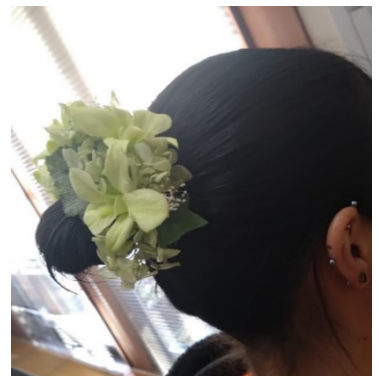
26番の裸ワイヤーでフックメソードをし、クラッチメソードをする。クラッチメソードのみでワイヤリングをするよりもフックメソードと合わせることで、より固定されて安定感が出る。組んだ後でもバンダの向きが調整しやすかった。



## 3. ワイヤリング

### (1) バック

デンファレとアジサイの色が同じライトトーンの緑だったのでぼやけた印象にもなった。ソフトトーンの葉物の造花を追加することで、メリハリ感が出て、まとまった印象になった。カスミソウ、デンファレを高く組み、アジサイ低く組むことで高低差が出て、バランスが良くなった。デンファレの輪数を増やしたことで、どこから見てもデンファレが見えるようになった。



#### 4. グルー

##### (1) サイド1

26番ワイヤーに直接花をグルー(生花用接着剤)で貼る方法で制作した。ガーベラなどの茎の太いものは貼れず、デルフィニウムやミニバラなどの茎の細い花しか貼れなかったため、ボリューム感のない仕上がりになった。ワイヤーのみの制作は厳しいと感じた。



##### (2) サイド2

レモンリーフ2枚を貼り、レモンリーフの裏に26番ワイヤーにフローラルテープを緩く巻いて2本貼った。緩く巻くと接着面が広がり、安定感が出た。レモンリーフを貼ったことでワイヤーの端が隠しやすかった。



##### (3) バック(コーム)

コームの裏面にリボンを貼り、表面に花材を貼る。コームの上部に凹凸があるのでガーベラやバラなど茎の太い花は葉に貼りにくかったが、バラなど重い花は、直接コームに貼った方が安定感が出た。



##### (4) サイド(クリップ)

クリップの先端にプラスチックの板を貼ることで先端まで花を貼りやすくなったが、プラスチックの表面に凹凸がないためグルーが乾くまで手で押さえないと花材が動いてしまった。プラスチックの上にリボンを貼れば更に固定しやすく手で押さえる必要がなくなると思った。



#### 5. まとめ

花材選びでは、色はもちろんトーン、形、大きさなどを考えなくてはいけないことを改めて学べた。今回グルーを使った制作にチャレンジしてみた。先生共々初めての試みだったが、試行錯誤を繰り返し制作することで、新しい技術を身に付けることが出来た。卒業後に身に付いた技術を就職先で活かし、更なる技術を身に付けたいと思う。